

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990700054	
法人名	社会福祉法人身延山福祉会	
事業所名	グループホームのぞみ	
所在地	山梨県南巨摩郡身延町飯富2288番地	
自己評価作成日	令和3年1月6日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会
所在地	甲府市北新1-2-12
聞き取り調査日	令和3年3月12日 (金曜日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の周りには田んぼや畑があり、散歩時など地域の方々との交流もある。車で1~2分の距離に、病院やスーパーマーケットなどがあり利便性が良い。施設内は木のぬくもりを活かし落ち着いた内装となっている。また、南側には広い庭があり樹木や花を植え四季折々の風景や、外気浴や日光浴、また、月に1度庭を愛でながらバイキングを楽しんでいただいている。居室も8畳弱あり、ご家族も宿泊できる広さとなっている。今年ではコロナ禍であり、地域住民との交流は図れていないが、関係性を継続できるよう働きかけを行っている。通年では余暇活動のボランティア等お話し相手もしていただき、年を重ねるごとに地域に溶け込みつつある。施設の理念は、自分が入りたい施設、受けたいケアについて職員全員で話し合ったものであり、「当たり前の暮らし」を常に考え、利用者の思いに寄り添い、利用者本位のサービス提供を心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道から少し奥に入った場所にあり、和風で趣のある2ユニットの建物である。玄関を出ると広い駐車場があり、随所にベンチが置かれていて近隣の方が休憩したり、バスを待つ方が座ったりする場にもなっている。コロナ禍で地域の方の触れ合う機会は少なく成っているが、いつでも触れ合える環境は整っている。敷地内の南側には広い庭があり、常に自由に散歩を楽しむことが出来、四季折々の季節感を味わえる環境である。また、木の温もりある施設内は広く一角には仏間があり、入居者が「お題目」を唱える様子も見られている。職員全員で話し合っ決めて理念を常に念頭に置き「今のケアを振り返り」入居者の思いに寄り添った支援の提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている 現状は(参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに(コロナ禍以前) 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている 現状は(参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが(コロナ禍以前) 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームのぞみ

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぼぼ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当施設の理念は、開設事前研修の際に職員全員で、自ら受けたい介護、入りたい施設について話し合い、共通の思いで作上げた理念であり、常に理念を念頭に置き課題に対処している。理念はケアの基となると考え、職員ミーティングの際に確認指導している。また、新しく入職した職員にも共通の認識が持てるよう指導している。	当施設の理念は、開設事前研修の際に職員全員で、自ら受けたい介護、入りたい施設について話し合い、共通の思いで作上げた理念であり、常に理念を念頭に置き課題に対処している。理念はケアの基となると考え、職員ミーティングの際に確認指導している。また、新しく入職した職員にも共通の認識が持てるよう指導している。	職員全員で話し合って決めた開所当初からの理念「自ら受けたい介護・入りたい施設」を額に入れ正面玄関・各ユニットの台所に提示し周知徹底している。昼礼は出勤者全員で申し送りを行ない、とすれば忘れがちになるケアに対し「今のケアはどうか」の立ち返りを行なっている。新人職員には先輩職員が理念に沿った業務指導を行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう。事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍で地域との交流はできていない。	コロナ禍で地域との交流はできていない。	自治会に入っていない。情報は町役場から直接連絡をいただいている。コロナ禍で今まで出来ていた地域交流ボランティアの受け入れ等は双方のことを考慮して出来ていないが、定期的に野菜を届けてくれる方との交流は続いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護教室等の改まった席は設けていないが、電話などの相談には応じている。	介護教室等の改まった席は設けていないが、電話などの相談には応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて開催していないが、入居者の状況、事故報告、活動状況等を書面で報告している。	運営推進会議は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて開催していないが、入居者の状況、事故報告、活動状況等を書面で報告している。	運営推進会議出席者に入居者の状況・活動状況・イベント情報・機関誌を写真付きで送付しているが、メンバーからは意見は聞かれていない状況である。家族から浮腫の改善をとの要望があり、職員で話し合い、足を挙上する・フットマッサージを行なう・ポンプアップ体操を行なうことで改善が見られている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退居、待機者の状況に加え、介護保険の更新時の情報提供、また、毎月の機関誌などを通して施設の活動状況を報告している。	入退居、待機者の状況に加え、介護保険の更新時の情報提供、また、毎月の機関誌などを通して施設の活動状況を報告している。	町の介護保険課に介護保険の更新時のタイミングで直接外向き、情報提供を行なっている。毎月の活動状況は機関誌や書面で報告を行なっている。質問やアドバイスはここ最近はないが、電話でのやり取りは細目に行い協力関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は開放し両ユニット間で協力体制を図り、帰宅願望等ある方に対しては、付添や見守りを行い落ち着かれるまで対応できるようにしている。身体拘束等の適正化のための指針をもとに身体拘束廃止検討委員会にて、不適切な言葉遣いやスピーチロックに関して振り返りを行い改善案を検討している。	玄関は開放し両ユニット間で協力体制を図り、帰宅願望等ある方に対しては、付添や見守りを行い落ち着かれるまで対応できるようにしている。身体拘束等の適正化のための指針をもとに身体拘束廃止検討委員会にて、不適切な言葉遣いやスピーチロックに関して振り返りを行い改善案を検討している。	身体拘束廃止委員会を定期的に行い身体拘束(不適切な言葉遣いやスピーチロック)の具体例を話し合い連絡帳を返して全職員で共有している。職員間で注意し合える環境ではあるが、とかく職員が少ない時に行動を止めてしまう声掛けや行動を否定する声掛けをしてしまう事が見受けられることがあり、管理者が提案し、職員間で話し合う機会を設け改善に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待に関する研修を行っている。不適切な言葉遣いや、ケアに関してはOJTIにて指導している。	施設内で虐待に関する研修を行っている。不適切な言葉遣いや、ケアに関してはOJTIにて指導している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業および成年後見制度についての資料を配布し勉強会を行っている。	日常生活自立支援事業および成年後見制度についての資料を配布し勉強会を行っている。1名の方が成年後見制度を利用するため、現在司法書士と連絡、調整を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は契約書、重要事項説明書の説明を行いその都度の質問に答えている。また、加算その他の理由による料金の改定に関しては、重要事項説明書を改定し説明同意を受けている。	契約時は契約書、重要事項説明書の説明を行いその都度の質問に答えている。また、加算その他の理由による料金の改定に関しては、重要事項説明書を改定し説明同意を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ伝える機会を設け、それを運営に反映させている	利用者には、日々の関わりの中で、要望や意見を伺っている。言葉として表せない方に対しては、表情などで心情をくみ取るように努めている。家族に対しては担当介護員が毎月、写真入りの手紙により利用者の状況を伝え家族との関係性を深め、また、面会や電話連絡の際に近況を伝え意見をいただいている。	利用者には、日々の関わりの中で、要望や意見を伺っている。言葉として表せない方に対しては、表情などで心情をくみ取るように努めている。家族に対しては担当介護員が毎月、写真入りの手紙により利用者の状況を伝え家族との関係性を深め、また、面会や電話連絡の際に近況を伝え意見をいただいている。	3~4割の入居者が意見や要望が言えるので日頃から聴き漁らさない様に心掛け、お便り・電話・玄関や窓越しの面会時に家族に伝えたり家族の意見や要望を聞き取る努力を行なっている。今回は看取り対応の方がおり、居室で面会が出来る体制をとったり、浮腫予防対応・傷のある入居者の受診による爪切り対応等個別の要望にも応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その日の出勤者が集まることのできる屋に昼礼を開きケアや業務についての意見交換を行っている。また、ユニット会議での意見をリーダー会議で検討、職員会議で決定し運営に反映させている。食事ケア委員会、行事レク委員会等がそれぞれの分野で企画運営の権限をもち主体的に行えるようにしている。管理者は個人と面談を行い、意見、悩みや不満等聴く機会を設けている。	その日の出勤者が集まることのできる屋に昼礼を開きケアや業務についての意見交換を行っている。また、ユニット会議での意見をリーダー会議で検討、職員会議で決定し運営に反映させている。食事ケア委員会、行事レク委員会等がそれぞれの分野で企画運営の権限をもち主体的に行えるようにしている。管理者は個人と面談を行い、意見、悩みや不満等聴く機会を設けている。	法人の総長が職員との書類の取り交わし時に声掛けがある。職員は昼礼時に意見を出し話し合っている。また、要望(勤務体制)やアイデア等職員会議で決定したことは運営に反映させている。個人で行っていた貼り絵を入居者・職員が一緒になって大作を作ってみようとの意見があり、6か月かけて富士山の貼り絵の大作が仕上がりに廊下に展示した。コロナ終息後、家族や地域の方に見てもらいたいと入居者は楽しみにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスケジュールは過密にならない様に、また、プライベートも大切に出来るよう希望休を聞きながら作成している。また、入居者と完全に離れて過ごす休憩時間を設けリフレッシュできるようにしている。委員会活動は得意分野についてもらい主体性を持った活動ができるように努めている。給与水準に関しては、法人で人事給与検討会を開催し、人事考課制度導入に向けて準備している。	職員のスケジュールは過密にならない様に、また、プライベートも大切に出来るよう希望休を聞きながら作成している。また、入居者と完全に離れて過ごす休憩時間を設けリフレッシュできるようにしている。委員会活動は得意分野についてもらい主体性を持った活動ができるように努めている。給与水準に関しては、法人で人事給与検討会を開催し、人事考課制度導入に向けて準備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍により、外部研修や法人内の研修は自粛のため、ビデオ研修している。また、業務内では関わり方やケア内容を見ながら必要時OJTを行っている。	コロナ禍により、外部研修や法人内の研修は自粛のため、ビデオ研修している。また、業務内では関わり方やケア内容を見ながら必要時OJTを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会が遠方で行われているため参加していない。	交流会が遠方で行われているため参加していない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より本人についてのバックグラウンドについて情報を収集し、感情や自分の思いを表出できるような環境づくりを行い関係性が築けるよう努力している。また、入居当初は、リロケーションダメージを考慮し、ご本人の状況を見ながらゆったりと関わり寄り添いの時間を作りなじみの関係ができるよう努めている。	入居前より本人についてのバックグラウンドについて情報を収集し、感情や自分の思いを表出できるような環境づくりを行い関係性が築けるよう努力している。また、入居当初は、リロケーションダメージを考慮し、ご本人の状況を見ながらゆったりと関わり寄り添いの時間を作りなじみの関係ができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	担当のケアマネジャーより情報を取り寄せる。また、事前に面接を行い家族の話を知っている。入居当初の環境に慣れない時期にあつては、本人の生活状況を細かく連絡している。	担当のケアマネジャーより情報を取り寄せる。また、事前に面接を行い家族の話を知っている。入居当初の環境に慣れない時期にあつては、本人の生活状況を細かく連絡している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に面談しご本人の状況を確認させていただき、福祉用具利用の提案をさせていただいている。	入居前に面談しご本人の状況を確認させていただき、福祉用具利用の提案をさせていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	様々な活動時、その方のできることを役割とし、一緒に行うことで協力し合う関係を築き、作業が大きな役割を担っていることと感謝の気持ちを伝えることで、入居者自身が存在意義を実感できるよう関わり方の指導を行っている。	様々な活動時、その方のできることを役割とし、一緒に行うことで協力し合う関係を築き、作業が大きな役割を担っていることと感謝の気持ちを伝えることで、入居者自身が存在意義を実感できるよう関わり方の指導を行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時家族がしてあげたいことを伺い、ケアプランに反映させている。また、入居時の居室環境設定は、本人と家族にお願いし居室づくりを行ってもらっている。受診の付き添いが可能なご家族にはお願いしている。	入居時家族がしてあげたいことを伺い、ケアプランに反映させている。また、入居時の居室環境設定は、本人と家族にお願いし居室づくりを行ってもらっている。受診の付き添いが可能なご家族にはお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会は玄関先でお願いしている。写真や動画を家族に送っている。家族、友人、知人からお届け物があった場合は、電話やお礼状の支援を行っている。	コロナ禍により面会は玄関先でお願いしている。写真や動画を家族に送っている。家族、友人、知人からお届け物があった場合は、電話やお礼状の支援を行っている。	コロナ課で今までの様に馴染みの人や場所へ行くことが出来ない。面会も玄関先で短時間と成っている。生活圏域にはなるがドライブで花見を楽しむ・電話や手紙を書く等、関係継続が途切れないように働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格や行動パターンや入居者同士の相性を考慮し、意図的に席を案内したり、橋渡しを行ったり、一人一人にスポットライトを当てながら、様々な作業を協力し合って行うことでお互いの存在を認め合う環境を作っている。また、作業終了時は、集団で行うことの大切さを感じることができるよう話をしている。	個人の性格や行動パターンや入居者同士の相性を考慮し、意図的に席を案内したり、橋渡しを行ったり、一人一人にスポットライトを当てながら、様々な作業を協力し合って行うことでお互いの存在を認め合う環境を作っている。また、作業終了時は、集団で行うことの大切さを感じることができるよう話をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のご家族には、施設で撮りためた写真をSDカードにデータ保存したものとデジタルフォトフレームを贈っている。また他施設に入居された方へ面会に行き関わりを持っている。(現在、コロナ禍のため出来ない)	退居された方のご家族には、施設で撮りためた写真をSDカードにデータ保存したものとデジタルフォトフレームを贈っている。お亡くなりになった方に対しては、通夜、告別式に参列させていただいている。また他施設に入居された方へ面会に行き関わりを持っている。(現在コロナ禍のため出来ない)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションが図れる方に対しては、個人の思いを聴いたり、漠然として答えられない方に対してはご家族に伺ったり、本人のバックグラウンド(生活歴・趣味・趣向)をもとにいくつかの選択肢を挙げ、選択していただいたり、その返答や表情を見ながら把握に努めている。また、毎日の関わりの中で感じたことや気になることを記録に残し、職員全員でそれを共有し、ミーティングで話し合い、本人の思いや願いをくみ取ることができるよう検討している。	コミュニケーションが図れる方に対しては、個人の思いを聴いたり、漠然として答えられない方に対してはご家族に伺ったり、本人のバックグラウンド(生活歴・趣味・趣向)をもとにいくつかの選択肢を挙げ、選択していただいたり、その返答や表情を見ながら把握に努めている。また、毎日の関わりの中で感じたことや気になることを記録に残し、職員全員でそれを共有し、ミーティングで話し合い、本人の思いや願いをくみ取ることができるよう検討している。	日々の関わりの中でゆっくり話を聴く等し、本人の思いの把握に努めている。本人の希望をいくつかの選択肢から選んでもらい、日々の日課の手伝いを行なってもらっている。思いや意向の伝えられない入居者は家族から聞き取りを行ったり、日々の行動や表情から汲み取り、職員間で話し合っている。例えば食事に関しては、どの機能がどこまであるか、美味しく食べているか、咀嚼状況はどうか等多角的なアプローチを行ないながら本人の身体状況の把握や思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に事前の面接を行い、家族の了解があれば、自宅訪問し、これまでの生活環境を拝見させていただいたり、生育歴・生活歴・趣味・趣向等情報を得ている。また、担当のケアマネジャーから本人およびサービスの利用状況の情報を得ている。	入居前に事前の面接を行い、家族の了解があれば、自宅訪問し、これまでの生活環境を拝見させていただいたり、生育歴・生活歴・趣味・趣向等情報を得ている。また、担当のケアマネジャーから本人およびサービスの利用状況の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の記録にて、バイタル、食事、水分量、に排泄、入浴など記録また、どのように過ごされたかを記述し、心身の状態を把握している。様々な刺激や事柄による感情、行動の変化を観察し、好みの過ごし方を検討している。また、できる・できない・支援によりできる事、わかる・わからない・支援によりわかることを把握している。	24時間の記録にて、バイタル、食事、水分量、に排泄、入浴など記録また、どのように過ごされたかを記述し、心身の状態を把握している。様々な刺激や事柄による感情、行動の変化を観察し、好みの過ごし方を検討している。また、できる・できない・支援によりできる事、わかる・わからない・支援によりわかることを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時は、本人、家族の思いに加え今までのサービス提供事業所やケアマネジャーからの情報を得て暫定ケアプランを作成し、1ヶ月後、それをもとに担当者がモニタリングを行い、ケアマネジャーが状況をご家族に必要な関係者に報告、意見を頂き、プランの修正を行っていった。以降3か月ごとに見直しを行い、家族に同意を得ている。	入居時は、本人、家族の思いに加え今までのサービス提供事業所やケアマネジャーからの情報を得て暫定ケアプランを作成し、1ヶ月後、それをもとに担当者がモニタリングを行い、ケアマネジャーが状況をご家族に必要な関係者に報告、意見を頂き、プランの修正を行っていった。以降3か月ごとに見直しを行い、家族に同意を得ている。	入居時に、本人・家族から意見や要望を聞き取っている。その他前事業者・ケアマネジャーからの情報を基に暫定プラン作成し1か月の様子を記録しモニタリングを行ない、本人主体のプラン作成を行なっている。プランは3か月ごとに見直し、家族・医師・看護師等の意見を組み込んだプランと成っている。入居者に状況の変化があった場合は都度状況に合わせた見直しプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録にケアの実践と結果を記録。職員間で共有し、気づきや工夫などは連絡ノートを用いて周知し次のケアに繋げ、ケアプランの見直しに活かしている。	個人の記録にケアの実践と結果を記録。職員間で共有し、気づきや工夫などは連絡ノートを用いて周知し次のケアに繋げ、ケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望にて、買い物等の付き添いを行っている。	本人の要望にて、買い物等の付き添いを行っている。ご家族の協力でかかりつけの美容院さんにてカラー、パーマをかけていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぼぼ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により地域の資源を活用できていない。	コロナ禍により地域の資源を活用できていない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8名の方が入居前からのかかりつけ医に診ていただいている。(そのうちの1名の方は訪問診療を受けている)職員付き添いの方に対しては、ケアマネジャーが付き添い主治医からの情報を得ている。家族対応の方には心身の状況(直近1週間のバイタル、食事水分摂取状況、排泄状況、および精神面の変化等情報提供し、受診結果を伺い記録している。また訪問看護を通して医師との連携をとっている。	6名の方が入居前からのかかりつけ医に診ていただいている。2名の方は遠方の施設からの転居の為家族の希望もあり転居されている。職員対応の方にはケアマネジャーが付き添い主治医から情報を得ている。家族対応の方には心身の状況(直近1週間のバイタル、食事水分摂取状況、排泄状況、および精神面の変化等情報提供し、また、受診結果を伺い記録している。また、訪問看護を通して医師との連携をとっている。	2ユニットの14名が以前からの係りつけ医を受診している。定期受診は基本、家族対応と成っているがケアマネジャーが同行する事が多く成って、受診後は家族に電話や手紙で結果を報告、了解を得ている。職員には申し送り時や個人ファイルに記入、また、月4回来訪する訪問看護師から報告を受ける等職員間の情報の共有が図られている。訪問看護師を通して医師との連携もしっかり出来ている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと業務委託契約している。訪問時に1週間の心身の状況の記録を確認して頂き変化がある方について相談をし、必要な処置や受診を行っている。	訪問看護ステーションと業務委託契約している。訪問時に1週間の心身の状況の記録を確認して頂き変化がある方について相談をし、必要な処置や受診を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供票を作成し、また、重要なポイント等は口頭でも説明し伝えている。電話等で情報交換を行い、退院に備えた環境作りをしている。	入院時には情報提供票を作成し、また、重要なポイント等は口頭でも説明し伝えている。電話等で情報交換を行い、退院に備えた環境作りをしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期のあり方について意向をうかがっている。以後もケアプラン説明時や体調変化時等重度化した場合について家族の意向を確認している。1名の方が見取りの対応であるが、ご家族には事業所で出来ること、できないことを十分に説明を行っている。月2回の訪問診療の際に、家族、主治医、看護師、ケアマネジャーで情報交換しケアの方針を確認している。	入居時に終末期のあり方について意向をうかがっている。以後もケアプラン説明時や体調変化時等個々の入居者に応じ、重度化した時の対応について家族に説明を行い、家族の意向をもとに対応を確認し合っている。	重度化の見極めは、食事が出来なくなった・受診しても改善が見込めない状況と医師が判断した場合に、家族の意向を踏まえ、医師・訪問看護師・管理者とでカンファレンスを行ない今後どうしていくか話し合っている。看取りケアのマニュアルが作成されており、医師の指導も受け職員間での連携がしっかり出来る。どのような状況下でも家族が付き添い、宿泊出来る(特別室)体制も整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルに沿って研修を行っている。症状に応じた処置や、対応方法を訪問看護師により、定期的に研修を受けている。	急変時の対応マニュアルに沿って研修を行っている。症状に応じた処置や、対応方法を訪問看護師により、定期的に研修を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、実際の火事を想定し通報、避難誘導、初期消火訓練を行っている。個々の身体機能や障害や、理解度等により避難誘導の方法を検討している。地震水害等の災害に関しても、非常災害対策計画を作成し、職員の参集時間の把握、役割分掌表により個々の持つべき役割に沿って行動できるよう、日中、夜間を想定した訓練を行っている。また、地元の自主防災組織関連に依頼している。	毎月、実際の火事を想定し通報、避難誘導、初期消火訓練を行っている。個々の身体機能や障害や、理解度等により避難誘導の方法を検討している。地震水害等の災害に関しても、非常災害対策計画を作成し、職員の参集時間の把握、役割分掌表により個々の持つべき役割に沿って行動できるよう、日中、夜間を想定した訓練を行っている。また、地元の自主防災組織関連に依頼している。	前回の調査での期待したい内容を念頭に置き、日中・夜間を想定した通報・初期消火訓練・避難誘導訓練を毎月実施し、それぞれの職員の果たすべき役割の確認や実施状況の把握を行ったり、地震・水害の非常災害対策マニュアルを作成し職員間でしっかり話し合い確認合っている。消防署・地域自主防災組織関連との連携・協力体制も依頼中である。備品・食料等の備蓄品も備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	日頃より相手の立場に立った声掛け、尊厳を守る支援を心がけるよう指導している。特に排泄時、入浴時、公衆の面前での声掛けの配慮や、個々の利用者にあった言葉のかけ方をすると、またスピーチロック等には注意するよう働きかけている。職員にも守秘義務についての指導を行い誓約書をとっている。	日頃より相手の立場に立った声掛け、尊厳を守る支援を心がけるよう指導している。特に排泄時、入浴時、公衆の面前での声掛けの配慮や、個々の利用者にあった言葉のかけ方をすると、またスピーチロック等には注意するよう働きかけている。職員にも守秘義務についての指導を行い誓約書をとっている。	入居者や他の方が聞いた時にどう思うかを常に意識し、自分がされて恥ずかしいことは絶対行わない、排泄時の誘導はさりげない声掛けで、排泄確認は暗号で行う・入浴時の脱衣行為や洗身行為時は羞恥心へ配慮し、誇りやプライバシーを損なわない支援を行う等、職員間でしっかり話し合っている。守秘義務の指導も徹底して行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや夕食の献立を一緒に考えたり、余暇の時間をどう過ごしたいか聞きながら進めている。また、大勢の前で意見や思いを言えない方については寄り添いながら聞いたり、意思疎通が困難な方に対しても、表情や行動で思いを汲みとるよう指導している。	おやつや夕食の献立を一緒に考えたり、余暇の時間をどう過ごしたいか聞きながら進めている。また、大勢の前で意見や思いを言えない方については寄り添いながら聞いたり、意思疎通が困難な方に対しても、表情や行動で思いを汲みとるよう指導している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぽぽ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活歴、背景を理解し要望をできるだけ聞いて支援している。起床時間や就寝時間などその方のペースに合わせて自由にしていただいている。日課はなく、余暇活動に関してもその時々で話題にあがったことを、個人及び集団の状況を見ながら進めている。集団で活動することが苦手な方については、無理強いすることなく希望を伺いながら対応している。おやつや場所も自由になっている。また、おやつや食事以外でも希望を伺いながら飲み物の提供を行っている。	生活歴、背景を理解し要望をできるだけ聞いて支援している。起床時間や就寝時間などその方のペースに合わせて自由にしていただいている。日課はなく、余暇活動に関してもその時々で話題にあがったことを、個人及び集団の状況を見ながら進めている。集団で活動することが苦手な方については、無理強いすることなく希望を伺いながら対応している。おやつや場所も自由になっている。また、おやつや食事以外でも希望を伺いながら飲み物の提供を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居時におしゃれについて(好みの色・デザイン・こだわり)などをうかがっている。(バックグラウンドアセスメント)着替えや入浴時など選べる方には選んでもらい、そのほかの方には好みと思われるものを一緒に選び着用していただいている。化粧の習慣のある方には化粧品が使えるように支援している。月に1回お洒落をする日を設けており、希望に応じて、マッサージ、や化粧をして楽しんでいる。	入居時におしゃれについて(好みの色・デザイン・こだわり)などをうかがっている。(バックグラウンドアセスメント)着替えや入浴時など選べる方には選んでもらい、そのほかの方には好みと思われるものを一緒に選び着用していただいている。化粧の習慣のある方には化粧品が使えるように支援している。月に1回お洒落をする日を設けており、希望に応じて、マッサージ、や化粧をして楽しんでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片づけをしている。	食事ケア委員が中心となり、嗜好調査を行い嫌いな食材には代替えを提供、昔作った料理を献立に入れるなど食事作りで反映させている。1週間分の献立を作るが、その日の天候や希望を聞きながら柔軟に対応している。テーブル拭きや野菜の皮むき、おしぼり作りや洗い物、片付けにおいてその方のできる事に着目し職員と一緒に進んで進んでいる。	食事ケア委員が中心となり、嗜好調査を行い嫌いな食材には代替えを提供、昔作った料理を献立に入れるなど食事作りで反映させている。1週間分の献立を作るが、その日の天候や希望を聞きながら柔軟に対応している。テーブル拭きや野菜の皮むき、おしぼり作りや洗い物、片付けにおいてその方のできる事に着目し職員と一緒に進んで進んでいる。	男性を除く女性職員が交代で入居者の嗜好調査や昔作った料理などを聞きながら1週間分の献立を立てている。調理は入居者一人ひとりの能力に合わせ、準備から片付け迄職員と一緒に進んで進んでいる。また、献立が決まっても、その日の天候や要望に合わせて鍋物やおでんに変えたり、おやつをその場で作って食べられるお好み焼き・ホットケーキ等に変えるなどして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーや栄養バランス等視野に入れながら献立を作っている。食事、水分量をチェックしながら摂取量が少ない方に対しては、食事の時間に限らず提供したり、その方の食べたい場所に配慮して提供している。食事は刻み、ペースト食、粥、ごはん、パン等、個々の利用者の咀嚼、嚥下その他の状況をみながら提供している。水分は好みのものやアイソトニックゼリーや果物等を摂っていただいている。	摂取カロリーや栄養バランス等視野に入れながら献立を作っている。食事、水分量をチェックしながら摂取量が少ない方に対しては、食事の時間に限らず提供したり、その方の食べたい場所に配慮して提供している。食事は刻み、ペースト食、粥、ごはん、パン等、個々の利用者の咀嚼、嚥下その他の状況をみながら提供している。水分は好みのものやアイソトニックゼリーや果物等を摂っていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力でできる方は毎食後、歯磨き、義歯の手入れを行っていただいている。その他の方は口腔状態により、歯ブラシ、口腔用スポンジ、舌ブラシ等口腔ウェットティを使用し能力に応じて行っている。	自力でできる方は毎食後、歯磨き、義歯の手入れを行っていただいている。その他の方は口腔状態により、歯ブラシ、口腔用スポンジ、舌ブラシ等口腔ウェットティを使用し能力に応じて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の記録(食事、排せつ、バイタル、入浴、心身の状況、活動、言動)から排せつパターンを把握し、声かけを行い8名の方がトイレで排泄している。個々のADLや身体状況にあわせ、介助バー、跳ね上げ式かを選択し対応している。	個人の記録(食事、排せつ、バイタル、入浴、心身の状況、活動、言動)から排せつパターンを把握し、声かけを行い全員の方がトイレで排泄している。個々のADLや身体状況にあわせ、介助バー、跳ね上げ式かを選択し対応している。	2ユニットで自己パンツの方が8名・リハビリパンツの方が9名おり、排泄チェック表で把握し声掛け誘導することで全入居者がトイレで排泄出来ている。自力での排泄を目指し一人ひとりの力・習慣を活かした声掛け誘導により、リハビリパンツから自己パンツに改善された方が3名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品(牛乳・ヨーグルト)とブルーベリー2個を提供、また水分摂取を勧めたり、繊維質の多い野菜を多く取り入れている。個人的には杜仲茶を飲んでいただき、スムーズな排便を促している。トイレ内に行き出れる方に関しては腹部マッサージを行い自然排便を促している。	毎日乳製品(牛乳・ヨーグルト)とブルーベリー2個を提供、また水分摂取を勧めたり、繊維質の多い野菜を多く取り入れている。トイレ内に行き出れる方に関しては腹部マッサージを行い自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間を通し毎日午前と午後入浴の対応を行い、入居者の希望、心身の状態をみながら進め、毎日入浴される方もいる。入浴するタイミングもその日のその状況に応じて誘い掛けを行っている。入浴剤を使用したりや冬至にはゆず湯にしたり、入浴を楽しんでいただいている。	1週間を通し毎日午前と午後入浴の対応を行い入居者の希望で進めている。入浴するタイミングもその日のその状況に応じて誘い掛けを行っている。入浴剤を使用したり、冬至にはゆず湯にしたり、入浴を楽しんでいただいている。	毎日入浴できる準備(午前・午後)はしてあり、希望に沿って普通浴・機械浴を行なっている。入居者の状態に合わせてそれぞれに合った入浴と成っている。毎日希望される入居者にも応えている。入浴が楽しめるように音楽を流す、歌を唄う、柚子湯・入浴剤を使用する等で楽しく安心な入浴が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(つくし)	ユニット名(たんぼぼ)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や午睡は自由にしていただいている。午睡の場所もベッドに限らず、ソファで休まれる方もいる。自ら言われない方に対しても活動状況や、心身の状況を見ながら適宜休息を勧めている。室温に配慮し、夜間も適宜水分補給を行っている。また、眠れない原因を考え起因しているものを取り除くようし、不安のある方には付き添う	休息や午睡は自由にしていただいている。午睡の場所もベッドに限らず、ソファで休まれる方もいる。自ら言われない方に対しても活動状況や、心身の状況を見ながら適宜休息を勧めている。室温に配慮し、夜間も適宜水分補給を行っている。また、眠れない原因を考え起因しているものを取り除くようし、不安のある方には付き添う		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬説明書をファイリングして、内容の確認を促している。また、内容に変更があった場合には申し送りノートおよび受診記録に記入し周知している。投与時は投薬チェック表に記録し、副作用に関しては、観察ポイントを個人別で表にし確認している。	内服薬説明書をファイリングして、内容の確認を促している。また、内容に変更があった場合には申し送りノートおよび受診記録に記入し周知している。投与時は投薬チェック表に記録し、副作用に関しては、観察ポイントを個人別で表にし確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	旅館で仲居をしていた方には、盛り付け、配膳、食器洗いをしていただいたり、着物の着方を教えていただいているそのほかの方にも縫い物や洗濯物干しや洗濯物たたみ、をしていただいている。コロナ禍で外食はいけませんが、施設内でバイキングや納涼祭その他毎月お楽しみ会を開き気分転換を図っている。	縫い物や洗濯物たたみ、をしていただいている。コロナ禍で外食はいけませんが、施設内でバイキングや納涼祭その他毎月お楽しみ会を開き気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	コロナ禍により本人の意向に沿った外出はできていない。ドライブや散歩、外気浴を行っている。	コロナ禍により本人の意向に沿った外出はできていない。ドライブや散歩、外気浴を行っている。	コロナ禍で1人ひとりの希望に沿った外出は出来ていないが、近隣の散歩には感染対策を行ない少人数で出掛けている。また、事業所内で地域の方に衣装を借りて寸劇を楽しんでもらったり「のぞみ湖釣り」と名付けた魚の形に切り抜いた段ボールに色を塗ってもらい、クリップと磁石を付けた魚やお菓子袋を吊り上げる等のレクリエーションを楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理されている方は1名、その他の方に関しては家族より依頼され施設管理し毎月、個人現金出納票と領収書を送付し確認して頂いている。	自己管理されえいる方1名、その他の方に関しては家族より依頼され施設管理している。外出や買い物、外食の際に所持し、見守りの中で支払を行っている。毎月、個人現金出納票と領収書を送付し確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があった時や、家族や知人から贈り物や手紙等あった際には電話をかける援助を行っている。また、手紙の返信の声掛けや文面を考える手伝いと投函の支援を行っている。	要望があった時や、家族や知人から贈り物や手紙等あった際には電話をかける援助を行っている。また、礼状の代筆や投函の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体的に広い空間となっているが、ベージュ、を基調とした普通の家の内装に近づけている。採光に関してはまぶしすぎないようにレースのカーテンで調節したり、音に関しては、テレビや音楽は雑音とならないよう、観よう、聴こうとしている時に点けるようにしている。また、職員の声掛けや生活音もできるだけ静かにするよう指導している。室温は空調設備・床暖等で調整している。花や観葉植物を飾り生活に彩りを加えている。	全体的に広い空間となっているが、ベージュ、を基調とした普通の家の内装に近づけている。音に関しては、テレビや音楽は雑音とならないよう、観よう、聴こうとしている時に点けるようにしている。また、職員の声掛けや生活音もできるだけ静かにするよう指導している。室温は空調設備・床暖等で調整している。花や観葉植物を飾り生活に彩りを加えている。	広いホールには豪華な調度品が置かれ、空調設備も整っている。天窓は眩しさを感しない角度で設置されており太陽の光が心地よく感じられ、落ち着いた雰囲気の中で生活ができています。共有空間に置いてある花や観葉植物も彩りを添えている。また、共有空間の一角にある仏間に入居者が「お題目・和讃」を唱える時間が持たれている。トイレ・脱衣所は車椅子で十分対応できる広さである。お風呂は2ユニット共有で普通浴槽・機械浴槽がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仏間前のソファは他の入居者から死角となり一人になれる空間である。また、ベランダには自由に出ることができる。利用者同士相性の良い方、仲の良い方を近くの席に案内している。	仏間前のソファは他の入居者から死角となり一人になれる空間である。また、ベランダには自由に出ることができる。利用者同士相性の良い方、仲の良い方を近くの席に案内している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン(自然な目覚めが促せるよう非遮光のカーテンを使用)と押入れ以外、すべて私物を自由に持ち込んでいただき、家具の配置も、基本的に本人と家族にお任せしているが、居室内を自由に歩くことができるよう家具の配置を提案した例もある。テレビ、鏡台、冷蔵庫、こたつ、タンス、仏壇、家族の写真や趣味のものなどがおおかれ、ご自宅に近い環境の中で生活されている。	カーテン(自然な目覚めが促せるよう非遮光のカーテンを使用)と押入れ以外、すべて私物を自由に持ち込んでいただき、家具の配置も、基本的に本人と家族にお任せしているが、ベッドに横になりながら、大事なものに触られるよう、ご家族の写真や趣味のもの配置を提案させていただき、それらに囲まれて休まれている方がいる。	個々の居室は広く、ゆったりとした空間であり、テラスに出て外気浴をしたり外を眺めたりすることが出来る。家族はベッド・タンス・ソファ・布団・家族の作った小物や飾り物・家族写真・趣味の刺し子・習字・俳句・編み物等、個々それぞれの馴染みの物を配置し綺麗に飾ってある。整理整頓された居室は居心地よく安心して過ごせる場と成っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどは目印をつけたり、衣類の引き出し等は簡潔に表示することで理解できるようにしている。日めくりカレンダーや時計で日時が理解できるようにしている。居室には表札があり自分の部屋が分かるようにしている。	トイレなどは目印をつけたり、衣類の引き出し等は簡潔に表示することで理解できるようにしている。日めくりカレンダーや時計で日時が理解できるようにしている。居室には表札があり自分の部屋が分かるようにしている。		